



高橋 秀彰 議員



重点支援地方交付金の活用について

問 重点支援地方交付金の活用は、市民ニーズを的確に捉え、物価高から市民生活を守る上で、どのような支援が一番効果があるのか、これまでの物価高騰対策の事例等も踏まえ、国の推奨メニューも参考に、実効性のある効果的な取り組みが必要と考えるが、所見を伺う。

答（市長） 市長就任3期目の重点政策として教育・福祉の充

実を掲げており、交付金は本年度に引き続き、令和7年度の小中学校給食費の無償化に活用していきたい。



古河市合併20周年について

問 合併20周年という節目の機会を捉え、市内外に向け、本市の魅力を広く情報発信する事業の推進が必要である。また、昨今の社会情勢に鑑み、コストを極力抑えながら、一方で大きな事業効果が得られる事業の推進

が必要と考えるが、所見を伺う。

答（市長） 一時的に盛り上がる事業を中心とせず、将来的に付加価値のある事業にしていきたい。特に、市民の誇りである市の歴史や文化を次世代につなぐ新たなイベントとして、経済効果も高いとされる将棋の第83期名人戦7番勝負の誘致に取り組んでいる。タイトル戦の中で最も歴史を有する名人戦を開催するにふさわしい都市として、一層の歴史文化の振興、経済の活性化を図る機会としたい。また、スポーツ振興を図るため、前回好評だった大相撲夏巡業古河場所の開催も考えている。合併20周年を契機として、これからの古河市を見据えた事業に積極的に取り組んでいきたい。



佐藤 稔 議員



「清水丘親水公園ウッドデッキ」の老朽化対策について

問 公園散策用に設置されたウッドデッキの老朽化について、利用者より修繕要望があるが、その後の市の対応について伺う。

答（都市建設部長） 現在、デッキの外側を柵で覆い、立入禁止の注意喚起をしている。全体の改修には大規模な予算確保が必要なため、維持管理等も含め引き続き予算計上を行っていく。民間の力を借りるなど公園の利

活用について検討し、安心して利用できるよう努める。



清水丘親水公園

「災害時のペット同行避難ガイドライン」の作成について

問 ペットとの同行避難における、飼い主の行動や自治体の支援等を解説した古河市版「同行避難ガイドライン」の作成が必要と考えるが、市の考えを伺う。

答（総務部長兼危機管理監） 古河市は特に浸水想定区域が広大で、長距離避難を余儀なくされる場合がある。ペット同行避難

も特段の準備が必要となるため、先行自治体の例を参考にし、市の特性を十分に加味したガイドラインを検討していく。

「気象防災アドバイザー」の採用について

問 利根川や渡良瀬川などの水害から市民を守るためには、気象の専門家である「気象防災アドバイザー」の採用が必要と考えるが、市の考えを伺う。

答（市長） 水害から逃げ遅れを防ぐには、早期の判断が必要である。現在は、インターネット等で情報収集しているが、気象防災アドバイザーの任用は、より早期で正確な予測を行う上で有用である。費用等の課題があるが、検討していきたい。